



さくらたより

令和4年度 学校だより
NO. 8
令和4年7月1日発行
山形市立桜田小学校

「いじめアンケート」と「子どもたちからの聞き取り」から

6月はじめのアンケート。それをもとに、担任が時間をかけて聞き取り（重点9日～14日）をしました。その聞き取りをもとに、“いじめ防止等対策会議”を持ち、実際の対応を進めています。大変遅くなりましたが、聞き取りから見えてきたこと、現在進行中の指導等についてお知らせします。

今回確認した具体的行為は様々です。軽くたたかれる蹴られる、わざとぶつかってこられる、嫌な言葉を言われる、からかわれる、が大半を占めています。また、格下に見るような態度、おどし・ひどい暴言、ひどい暴力、仲間外しという、心や体を傷つける事案、抱きつくなど不快を感じるくらいの接触事案もありました。

双方の言い分を確認し、行った側の児童にはすでに指導を済ませています。これから繰り返して指導しなければならない事案もあります。今後、十分な心配り・目配りをし、安心できる学級づくり・楽しい授業づくり等を、これまで以上に力を入れて行っていきます。

被害を訴えてくれた児童への対応

まずは、「嫌だったのだ」と表現してくれたことに感謝します。一人で抱え込んでしまっただけでなかなか解決しないことが多くあるのが実態ですから。嫌な思いをしなくてもいいように、思いを相手に伝え、行為をやめてもらうようにします。また、話を聞いていくと、お互いが、嫌な思いをし嫌な思いをさせていたという事案もありました。双方の言い分を十分に聞き取り、納得してもらい、解決に向かっていきます。今後も細心の注意をはらい、対応していきます。

行った側になった児童への対応

- ①自分は好意のつもりでも、遊び半分でも、相手が嫌な思いを持ってしまうことがあるのだとわかってもらいます。「楽しいのはあなただけ。相手は嫌がっている。」 ー 下学年ほど、この指導が必要であると、強く感じます。
- ②暴力に関して、「いくら嫌なことがあっても、暴力は絶対にダメ」と、繰り返し指導します。
- ③暴言等に関しては、相手の気持ちに対する想像力をつける指導をしていきます。「自分が言われたら？」と、立場を変えた見方等をこれまで同様に繰り返し指導します。
- ④内面に抱える友だち関係の悩み・学習に関わる悩みがないかなど、行為の背景を洞察し、不安や不満を解消していけるように支援していきます。

周囲の児童（全体）への指導

- ①「あれっ？」と思う言動を見聞きしたとき、「やめなよ！」と言える勇気を持てるように励ましています。
- ②その勇気を出せるような集団づくりを行っています。
- ③見て見ぬふりをせず、声を出すこと。その場で言えないようなときは、後で大人に知らせるように指導しています。大人に知らせることは、決して“ちくり”として非難されるものではなく、正義であることを繰り返し教えています。

これからも、お子さんの様子や会話などから、「おかしいな」と感じたときにはすぐお知らせください。

「いじめ防止」標語 募集

令和4年度「“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動」の一環としての標語募集です。昨日1人1枚渡しました。家族と話し合っただけで“いじめ”に対する意識を高めることをねらっているものです。

是非、応募ください。

桜田小 締め切り

7月15日（金）

校外学習

6月は2年生～5年生が校外学習に出かけました。校内の学習だけでは得ることができないことを感じ取る、学校外の方々から教わることで新たな学びの視点を得るなど、子どもたちにとって多くの学びがありました。

2年生 生活科 山形市少年自然の家 ～初夏の野山散策～

虫取り網と虫かごを持ち、自然の家にバスで出向きました。気持ちのいい夏空のもと、野山を散策。職員の方から植物や昆虫等の話を聞きました。また、夢中になって虫捕まえ。カエルがたくさんいたということで、その後の教室は、カエルたちの飼育ケースがいっぱいです。



3年生 社会科 ～さくらんぼ農園 訪問～

山形県特産のさくらんぼ。どのようにして作られるのか、農園の方々はどのような工夫や努力を重ねているのか、直接見てお話を聞くことができました。一番大変なのは収穫作業で、今の時期が最も忙しく、4～5人で毎朝の2時間でおよそ2万個収穫しているという話に、子どもたちは驚いていました。ご厚意で、さくらんぼ狩りも体験させていただきました。



4年生 社会科見学 ～浄化センター・浄水場～

「浄化センター」では私たちが生活に使った水のゆくえについて、「浄水場」では安全できれいな水をつくる仕組みについて調べました。排水が浄化されていく工夫と、安全な飲み水になっていく様々な努力を知ることで、自分たちにとってあまりにも当たり前だった『水』についての認識が深まりました。



5年生 山形市少年自然の家 ～宿泊体験学習～

3年ぶりに宿泊することができるようになった自然の家。今年の5年生は、過去2年間悔しい思いをした先輩たちの思いも引き受けたかのように、自然の中でおもいっきり楽しみ、みんなと寝袋を並べて一夜を過ごしました。

一日目、到着後すぐ、“白鷹山ウォークラリー（班ごとに地図を頼りに歩く）”。励まし合いながら登頂。持参したお昼ご飯を食べ、ゆったり。下りは慎重に。そして長い長い道路を歩いてゴール。何とか歩き通した子どもたちです。夕飯は、炊飯場で薪に火をつけ湯を沸かして“レトルトカレーとパックご飯”。炊飯活動としては物足りませんが、「コロナ対応」と言われれば従うしかありません。

本館泊。入浴後、男子は体育館に、女子は研修室と視聴覚室に、寝袋を並べて眠りにつきました。寝付けなかった子も何人か……。

二日目、“いかだアドベンチャー”。はじめはおそろおそろでしたが、力をあわせてオールをこぐ楽しさ、湖面を進む心地よさなどを感じながら、心を解放した笑顔があふれる活動になりました。

校歌2番の歌詞に出てくる♪西の白鷹～♪に対する思い出が鮮明に残る二日間となりました。

